

## プレ夏休み講座2018

## 「アイヌ・デザイン～スケッチと刺しゅう～」

多くの小学生が頭を悩ますであろう、「夏休みの自由研究」。独創力の無い小学生だった私は、夏休みの宿題の中でも自由研究が大っ嫌いでした。そんな私がプロデュースした、小学生のみなさんの自由研究に役立つ講座「プレ夏休み講座2018 アイヌ・デザイン～スケッチと刺しゅう～」の様子をご報告します。

本講座は、夏休みに入る前の3連休に、2日間にわたって開催しました。1日目は7月14日(土)(13時～16時)、2日目が15日(日)(10時～15時)、市内小学校の5・6年生8名が参加してくれました。

この講座の目的は、自分たちの目と手と頭を使って、アイヌ文様を感じ、そして考えてもらうということでした。普段、子どもに限らず大人からも「アイヌ文様の意味」について質問されることがしばしばあります。しかし、この質問には一言で簡単に答えることができません。そもそも「意味」とはどういうことだろう、文様のモチーフを尋ねられているのか、道具や衣服に文様をつけることの「意味」なのか。いずれにしても、答えは一つではないのです。このような一筋縄ではいかないテーマを小学生にどう考えてもらおうか、大変悩みました。しかし、この講座は、私が学芸員として実践する最初の講座ですので、とにかく考えられうる内容を詰め込んで、実施してみました。

1日目には、まず参加者同士の交流のきっかけとして、またアイヌ文化に対して親しみを持ってもらうという目的で、アイヌ語を使ったゲームと歌をみんなでやってみました。さすがに子どもたちは飲み込みが早く、アイヌ語の単語もすんなりと吸収して使っていました。続いて、アイヌ民族の歴史と文化についてのお話をしてから、本題のアイヌ文様を他の民族の文様と比較しながら紹介しました。それから、展示室に展示してある資料の中から、アイヌ文様を探してスケッチするとい

う活動に移りました。1人につき2点ずつ描いてもらい、その資料が何なのか、その文様のどこが気に入ったか、描くにあたってどこが難しかったかということを発表してもらいました。

2日目は、釧路アイヌ協会のみなさんの協力で、マタンプシ(はちまき)の刺繍を体験してもらいました。本講座に参加する皆さんは、男の子も女の子も、手芸に興味がある方が多かったようです。丁寧に時間をかけて作る子もいれば、あっという間に仕上げた2つ目に取り掛かる子もいましたが、どの子も夢中になって刺繍に取り組んでいました。

最後に、アイヌ衣装を身につけ、釧路アイヌ協会の皆さんと一緒にフンベリムセ(鯨踊り)を歌って踊りました。

参加者の皆さんからは、本講座を通して、いろいろなことが体験できてよかった、楽しかった、という声が聞かれました。本題のアイヌ文様については、それぞれが熱心に文様を観察して、特徴を感じてくれたように思いますが、ほかの民族の文様との違いや、意味などについては、やはり難しかったようです。大人にも伝えるのが難しいので当然ですね。しかし、子どもは柔軟な感性で美しさ、かっこよさを感じ取ってくれたはずですよ。いつか、ここで見聞きしたことや、感じたことを思い出して、深く考えてくれることがあったら嬉しいな、と思います。(城石梨奈)



刺繍を教わっている様子